

日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域 平成26年度総会議事録

日 時：平成26年8月27日(水) 12:40~13:10

場 所：岩手大学工学部 テクノホール

1. 開会宣言 (森丘保典氏)

2. 挨拶 (朝岡正雄会長)

3. 議長団・議事録署名人の選出

議事に先立ち、議長として青山清英氏(日本大学)が推薦され、承認された。また、議事録署名人として、佐藤徹氏(北海道教育大学)、近藤克之氏(日本大学)が推薦され承認された後、以下の審議がなされた。

4. 報告事項

(1) 編集委員会報告

青木和浩編集副委員長より、コーチング学研究第28巻1号の編集進捗状況について、査読中の論文が10編。3~4編は査読の最終段階であり、10月に発刊予定であるとの報告がなされた。また、日本体育学会体育方法専門領域会報がコーチング学研究に統合されているため、大会優秀発表抄録や研究助成の短報の掲載について、執筆要項等を系統的にまとめることとなった。また、その要項が出来次第、該当者へ連絡していく旨も報告がなされた。

(2) 学会大会委員会報告

次回学会大会事務局の梅林薫理事より、第26回学会大会(大阪体育大学)の準備進捗状況について報告がなされた。学会大会は平成27年3月7日(土)、8日(日)で、従来通り基調講演、ワークショップ、インパクトプレゼンテーション、ポスター発表で構成し、申込締切を2015年1月7日あたりで考えているとの報告がなされた。

(3) 次期役員選出選挙管理委員の選出について

青山清英理事より、第2回理事会において、本年度行われる次期(平成27、28年度)役員選出選挙管理委員の選出について審議がなされ、野口智博庶務委員長、長谷川聖修庶務副委員長が選出されたとの報告がなされた。

5. 審議事項

(1) 平成25年度日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域総会議事録の件

青山清英理事長より前回議事録について提案がなされ、原案通り承認された。

(2) 学会名称変更、会費の改定ならびにそれらに伴う会則の改訂について

朝岡正雄会長より名称変更について、理事会における審議の経緯について説明がなされた。また、青山清英理事長より、会費の改定についても同様に審議の経緯について説明がなされ、これらの説明を元に、会則の改訂箇所について説明がなされた。特に学生会員制度については、現状の会員数との兼ね合いや収支予測を十分に検討した上で、次回理事会までに原案を作成し、次回総会で結審したいとのことでした。なお、これらについては引続き会員からの意見を募るので、理事または事務局へ意見を寄せて欲しいとの依頼があった。

日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域 平成26年度総会議事録

日 時：平成27年3月8日(日) 9:00~9:30

場 所：大阪体育大学 D号館201教室

1. 開会宣言 (曾根純也氏)

2. 挨拶 (朝岡正雄会長)

3. 議長団・議事録署名人の選出

議事に先立ち、議長として青山清英氏(日本大学)が推薦され、承認された。また、議事録署名人として、高岡治氏(鹿児島大学)、青木和浩氏(順天堂大学)が推薦され承認された後、以下の審議がなされた。

4. 報告事項

(1) 編集委員会報告

岡子浩二編集委員長より、コーチング学研究第28巻2号の編集進捗状況について、原著論文が5編、研究資料2編、短報5編で、3月末日に発刊予定であるとの報告がなされた。

(2) 企画委員会報告

佐藤徹企画委員長より、平成26年度研究助成公募の選考結果について報告がなされた。

5. 審議事項

(1) 平成26年度日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域総会議事録の件

青山清英理事長より前回議事録について提案がなされ、原案通り承認された。

(2) 平成26年度活動報告と決算案について

野口智博庶務委員長より、平成26年度活動計画と決算案について説明および提案がなされ、原案通り承認された。

(3) 平成27年活動計画および予算案について

野口智博庶務委員長より、平成27年度活動計画と予算案について説明および提案がなされた。その中で、会費の改訂による会費収入の見込みについては、現会員数から算出していることと、この後審議される平成27・28年度新役員選出が終わり次第、委員会の役割分担を確定させた後に、直ちに今提案している活動計画の詳細やそれ以外の活動計画について協議することになるため、必要に応じて日本体育学会年次大会時の理事会・総会にて、補正予算として再度提案がなされる旨の説明がなされた。それらも併せて、原案通り承認された。

(4) 会則の改訂について

野口智博庶務委員より、会則の改訂についてその経緯と詳細について説明がなされた。野村照夫理事より、第13条役員選出規定の「定」を「程」と修正するようにとの指摘があり、それを修正することを含めて承認された。

(5) 役員選出規程の改訂について

野口智博庶務委員長より、役員選出規程の改訂について説明および提案がなされ、原案通り承認された。

(6) 青山清英理事長より、平成27・28年役員の選出について、選出の過程と選出結果について提案があり、原案通り承認された。

平成26年度 日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域 第2回理事会議事録

日時：平成26年8月26日(火) 12:00~13:30

場所：盛岡地域交流センター マリオス会議室184

出席者：朝岡正雄(会長)、葛西順一(副会長)、青山清英(理事長)、會田 宏、青木和浩、梅林 薫、遠藤俊郎、佐藤 徹、野口智博、野村照夫、長谷川聖修、道上静香(12名)

幹事：鈴木淳也、近藤克之、本道慎吾

委任状提出者 16名

1 開会宣言 朝岡正雄会長より、以下の通り挨拶があった。

先般の体育学会代議員選挙の結果について体育学会理事会で報告があったが、本領域の投票率が9%台と最も低かったとのことであった。これから行われる役員選出選挙の投票率を上げることが必要である。また、今学会大会の口頭発表数は、体育科教育専門領域に数件差で負けた。本領域はポスター発表は断然多いが、論文数も含めて研究活動の一層の活性化を進めて欲しい。

2 議事録署名人として、遠藤俊郎理事と道上静香理事が選出された。

3 報告事項

- 1) 近藤克之編集幹事より、コーチング学研究第28巻1号の編集進捗状況について、現在7編が校正完了および校正中。10編が査読中であり、うち3~4編は掲載の可能性があるため、概ね10編程度の掲載となる見込みであることが報告された。
- 2) 青木和浩編集副委員長より、優秀賞・奨励賞の受賞者に対する発表抄録提出依頼について報告がなされた。今回の表彰者には、コーチング学研究への抄録投稿を要請することとなった。今後、次回理事会に向け、学会賞規定や研究助成報告の件も含め、学会大会委員と編集委員間で協議した上で成文化し、改めて表彰規定を審議することとなった。
- 3) 次回学会大会事務局の梅林薫理事より、次回学会大会の準備進捗について、大会テーマ、基調講演、ワークショップ等の企画案について説明がなされた。発表形式は従来通りポスターとインパクトプレゼンテーションとし、参加・発表申し込み開始時期や締切り等については、前年までの締切り次期を参考にした上で決定し、速やかにホームページ上で告知することとなった。
- 4) 野口智博庶務委員長より、7月11日(金)から7月13日(日)にかけて行われた、アジア太平洋コーチング学会大会について報告がなされた。
- 5) 長谷川聖修庶務副委員長より、スポーツ方法学会発足当時から世話人代表として会の運営に多大な貢献をされた、西山常夫先生が逝去され葬儀に際し学会として弔電を送ったことが報告された。

4 審議事項

- 1) 青山清英理事長より、前回議事録について提案がなされ、末尾の「手続きをしたい」を「提案にしたい」と修正することとし、原案通り承認された。
- 2) 青山清英理事長より、次期役員選出選挙管理委員として、庶務委員の野口智博理事と長谷川聖修理事を推挙したいとの提案があり、原案通り承認された。
- 3) 青山清英理事長より、会費の変更および学会名称変更の件と、それらに伴う会則の改訂について提案がなされ、朝岡正雄会長から経緯説明があった。学生会員の制度の復活の可否について論議がなされたが、他の文言修正や役員選出規定の名称変更が必要であるため、それらを含めて改めてメーリングリストによる審議を続け、意見収集した上で審議を継続することとなった。なお、本案件については3月総会では結審することで合意した。
- 4) 青山清英理事長より、次回理事会日程について12月20日(土)14時より、日本大学文理学部体育学科会議室にて行うことが提案され、原案通り承認された。

6 閉会宣言 朝岡会長より閉会の挨拶があった。

平成26年度 日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域 第3回理事会議事録

日 時：平成26年12月20日(土) 14:00～15:20

場 所：日本大学文理学部 体育学科会議室

出席者：朝岡 正雄（会長）、葛西順一（副会長）、青山清英（理事長）、會田 宏、青木和浩、植田恭史、遠藤俊郎、佐藤 徹、塩野谷明、凶子浩二、高岡 治、寺山由美、野口智博、野村照夫、長谷川聖修、安井年文、若吉浩二（17名）
幹事：近藤克之、本道慎吾
委任状提出 12名

1 開会宣言 朝岡正雄会長より、以下の通り挨拶があった。

年度3回目の理事会となるが、今回は諸規定(程)の改訂に関する審議もあるので活発な論議をお願いしたい。

2 議事録署名人として、安井年文理事と若吉浩二理事が選出された。

3 報告事項

- 1) 日本コーチング学会第26回学会大会準備進捗状況について、大会事務局の梅林薫理事代理として、同大会事務局の曾根純也氏（大阪体育大学）より、大会内容およびプログラム、発表抄録締切り日程について報告があった。また、会場周辺は宿泊施設が少ないため、理事用に近隣宿泊場所を用意することの連絡がなされた。
- 2) 凶子浩二編集委員長より、コーチング学研究第28巻1号が、原著6編、研究資料1編にて発刊されたとの報告がなされた。また、第28巻2号の編集進捗状況については、既に数編が査読終了したが、概ね10編は掲載したいとのことであった。なお、ケースレポートの投稿が少ないため、理事のメンバーからも院生等にご指導いただき、積極的に投稿を促してもらうよう依頼された。
- 3) 野口智博役員選出選挙管理委員長より、開票作業終了したとして、以下の通り報告があった。返送総数は226通で、返送率は1690通中226通の13.3%であった。うち、有効投票数は207通、無効投票数は17通、白票は2通。理事投票数は871票で、うち866票が有効投票であった。現在、上位者の会員登録等の最終確認をしており、確認終了後、直ちに上位者へ諾否確認にはいることが報告された。なお、新理事の会は1月下旬を予定しているとのことであった。
- 4) 青山清英理事長より、平成27、28年度体育学研究および国際誌の本専門領域代表の編集委員の推薦について、メール審議の通り体育学会事務局へ推薦を行った旨、報告がなされた。

4 審議事項

- 1) 青山清英理事長より、前回議事録について提案がなされ、原案通り承認された。
- 2) 青山理事長より、会則の改訂について提案がなされた。特に事務局所在地を明記する点と、学生会員を採用するかどうかについて意見の収集が行われたが、長谷川聖修庶務副委員長より、次期事務局と相談の上、使用する口座が存在する場所を事務局として記すことで、承認された。また、野口庶務委員長より、大会発表の関係で学生会員の入会が増える時期があり、その後専任職へ移行された後に正会員として登録される場合もあるため、学生会員については継続した方が良いのではないかと意見があった。青山理事長より、その際の支払先について会則第6条2項の修正が必要ではないかと提案があり、第2項(2)の学生会員を削除し、(3)として「学生会員は現金振込とする」の文言を加えることを条件に承認された。
- 3) 野口庶務委員長より、役員選出規程の改訂について説明がなされたが、遠藤俊郎理事より制定日の記入欄について、改訂日を加えた方が良いとの指摘があったため、改訂日を加えることとして承認された。
- 4) 會田宏学会大会委員長より、コーチング学会大会、日本体育学会大会体育方法専門領域発表における、それぞれの表彰規定の改訂について説明と提案がなされた。野村理事より「規程」と「規定」の解釈の違いについて説明があり、それらを踏まえて両「規定」を「規程」と統一することとした。また、塩野谷明理事より体育方

法専門領域の表彰規定の表題には「日本体育学会」が必要ではないかとの指摘がなされ、それらの修正を行うことを条件に承認された。

- 5) 青木和浩編集副委員長（前任期体育方法編集委員長）より、体育方法専門領域で発行されていた会報の今後の対応について編集委員会で検討した結果、体育学会大会シンポジウム報告と体育学会大会ワークショップ報告については、現行のコーチング学研究の「特集」として掲載する。日本体育学会大会優秀賞・奨励賞と、日本コーチング学会大会優秀賞については、現行のコーチング学研究の「事務局報告」に発表者とタイトルを掲載する。また、助成研究報告については、助成報告書の提出義務と、雑誌掲載の際などには「助成を得ている」旨を記載するとの提案があり、原案通り承認された。
 - 6) 青山理事長より、本理事会に先立って行われた特別委員会で、現在各所でスポーツ指導における体罰問題等の議論について整理し、政策諮問委員会等に出席している理事の情報などを整理した。その結果、議論の中核に現場のコーチ経験者が極めて少ないことなどが問題であると考え、現場指導者が多く会員登録をしている本学会も、現場の立場からアクションを起こす必要があるとの結論に至ったとの報告がなされた。今後、事務局より議事録を送付するので、意見等を収集したいとのことであった。
- 5 閉会宣言 葛西順一副会長より閉会の挨拶があった。

平成26年度 日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域 第4回理事会議事録

日 時：平成27年3月7日(土) 11:00~12:00

場 所：大阪体育大学 N号館202教室

出席者：朝岡正雄（会長）、有吉正博（副会長）、葛西順一（副会長）、青山清英（理事長）、會田 宏、青木和浩、伊藤雅充、内山治樹、梅林 薫、大嶽真人、佐藤 徹、高岡 治、中川 昭、野口智博、野村照夫、長谷川聖修、村木征人（17名）

幹事：鈴木淳也、近藤克之、本道慎吾

委任状提出者15名

1 開会宣言 朝岡正雄会長より、以下の通り挨拶があった。

組織統合して丸二年間、会則の改訂など様々な問題があったが組織の規定などは概ね整理ができた。これからは研究の中身を良くしていかねばならない。個別種目の学会と同様の活動内容ではコーチング学会の意味はないので、研究課題別に、種目の壁を越えた論議をして欲しい。そのためにはコーチング学全体の体系化をしなければならない。日本体育学会年次大会の専門領域の発表等はその形にシフトしているが、全体的にはまだ浸透していないように感じている。そのためコーチング学の叢書を作り啓蒙していきたいが、是非そこには若い人たちに積極的に参加してもらい、活発に研究を行ってもらえるようにして欲しい。

2 議事録署名人として、有吉正博氏と梅林薫氏が選出された。

3 報告事項

- 1) 青木和浩編集副委員長より、コーチング学研究第28巻2号の編集進捗について、原著が4~5編、研究資料が2編の掲載予定で、研究助成短報は5本中4本が入校を済ませたことが報告された。また、投稿数が多く、2013年から継続中の案件が2編あるため、委員の中で早い対応を促しながら作業を行っていることも合わせて報告された。
- 2) 會田宏学会大会委員長より、第27回学会大会について、現在、検討していると報告された。また、朝岡会長より、新理事の役割分担が決まり次第、第66回日本体育学会における専門領域企画も進めて欲しいとの依頼があった。

4 審議事項

- 1) 平成26年度活動報告と決算案について、野口智博庶務委員長より説明があった。特に収入の部の「前事務局ゆうちょ口座からの移動」の総額と詳細については、監査を担当した佐川正人・川井昂両監事より十分な説明を要求されたため、前体育方法事務局安井年文理事による説明文と合わせ、当該口座通帳の出入金履歴を入手に確認し、意図的な資金操作がないことを確認した後、原案通り承認された。
- 2) 平成27年度活動計画と予算案について、野口智博庶務委員長より説明があった。会費収入が前年度比より大幅に増額することについて、中川昭理事より繰越金が増額することを危惧する旨の意見があったが、野口智博庶務委員長より、新役員が正式に選出された後に、各委員会の活動計画を練り直し、補正予算という形で再度検討をする必要があるとの回答があった。村木征人理事より、専門領域の会員数がどの程度変動するかが全く読めないが、その中でも会員のデータベースを持ち、個々の感心を共有して、資金の適切な運用を検討したら良いのではないかと提案もあった。青山清英理事長は、各委員会が決まり次第、具体的な活動計画を練り、日本体育学会年次大会時の理事会と総会にて補正予算として提示することを条件にしたいとの提案があった。また高岡治理事より、総会の際に、現会員が残っていることを想定した上での会費収入の見込みであると説明することを条件に、原案通り承認された。
- 3) 会則と役員選出規定の改訂について
野口智博庶務委員長より、会則の一部改訂と役員選出規程の改訂について説明と提案がなされた。会則は、学

生会員制度が復活することや、最終章に事務局所在地が、次期事務局が決まり次第明記されることについて説明があった。役員選出規定については、先に行われた新理事の会において、役員選出の際の時系列にあわせるべきとの指摘があったため、選出の順序を修正したこと、会長・副会長を役員数に含めないことが確認されたことから、会長・副会長を選出した後3名の役員候補の追加を行い、会長推薦の5名を合わせ、役員総数が28名となることが説明された。これらについて原案通り承認された。

- 4) 會田宏学会大会委員長より、日本体育学会第65回大会における専門領域発表の表彰対象者について提案がなされ、原案通り承認された。なお、受賞者は第66回大会における総会の際に表彰を行うことが確認された。
- 5) 総会議事について、青山理事長より説明と提案があり、原案通り承認された。

5 閉会宣言

大会事務局を代表して梅林薫理事より、挨拶および会議の閉会宣言ながされた。挨拶の中で、開催校は現在50周年であることと、さらに来年は日本体育学会大会も開催予定であることが伝えられた。また、本大会のプログラムの中で、作道正夫先生のワークショップ、伊藤章先生の講演については、大阪体育大での最終講義のような形となるため、事前に了承して欲しいとの依頼があった。

平成27年度 日本コーチング学会 第1回理事会議事録

日 時：平成27年5月30日(土) 14:00~15:15

場 所：日本大学文理学部体育学科 会議室

出席者：朝岡正雄（会長）、青山清英、岡子浩二、佐藤 徹、會田 宏、青木和浩、長谷川聖修、阿江通良、伊藤雅充、梅林 薫、遠藤俊郎、大嶽真人、重城 哲、野口智博、野村照夫、村木征人、森丘保典、吉田清司（18名）

幹事：金堀哲也、鈴木淳也、大塚 隆

委任状提出者9名

1 開会宣言（朝岡正雄会長）

朝岡正雄会長より、組織統一を行った日本コーチング学会の今後は、活動の充実に向けて進んでいきたい旨の挨拶があった。

2 議事録署名人

議事録署名人として、岡子浩二氏と青木和浩氏が選出された。

3 報告事項

1) コーチング学研究第29巻1号の編集進捗状況について

資料1に基づき、青木和浩編集委員長より以下の報告がなされた。原著4件、研究資料3件、実践報告1件の合計8件を掲載準備である。旧編集委員会としては、残り3件が審査中である。10月発刊の予定である。新編集委員会としては9件の論文の提出を受けており、今後査読を行う。審査内規を変更し「審査時に他の論文種別の評価を行わない。」こととした。また、投稿者へ査読結果を返す際に原稿提出は2ヶ月以内に行うよう伝えることとする。日本コーチング学会と日本体育学会体育方法専門領域の合併により、執筆者や共著者の資格有無の調査が難しい状況にある。

2) 日本体育学会第65回大会（国士舘大学）の体育方法専門領域企画・準備進捗状況について

資料2に基づき、以下の報告がなされた。

- ・大会日程：會田宏学会大会委員長より、大会日程についての説明があった。8/25(火) 理事会・ワークショップ、8/26(水) シンポジウム・総会・口頭発表(2会場)、8/27(木) 口頭発表(3会場)・ポスター発表を、例年通りの方法で行う。座長は6/3までに決定し、6/6日本体育学会事務局に提出予定である。表彰はこれまで通り優秀賞のみとする。
- ・シンポジウム：森丘保典理事より、シンポジウムについての説明があった。「私のコーチングから私たちのコーチングへ」をテーマとし、久保潤二郎氏、山田永子氏、川村卓氏をシンポジストとして開催する。
- ・ワークショップ：長谷川聖修理事より、ワークショップについての説明があった。日本体操学会との共催により「スポーツパフォーマンスが変わる身体の使い方」をテーマとし、阿部良仁氏によるワークショップを開催する。

3) 第26回日本コーチング学会大会（大阪体育大学）について

資料3に基づき、梅林薫理事より学会大会の終了報告がなされた。

4 審議事項

1) 前回理事会議事録確認

前回議事録（平成26年度日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域第4回理事会議事録）（資料4）が承認された。

2) 平成27・28年度コーチング学会委員会名簿について

資料5に基づき、長谷川聖修理事より説明がなされた。記載漏れのあった幹事4名を加えて承認された。加

筆修正した名簿が後日作成されることとなった。

3) 第26回学会大会決算について

資料6に基づき、長谷川聖修理事より説明がなされ承認された。

4) 会則の改定について

資料7に基づき、長谷川聖修理事より説明がなされた。郵便局での学会口座を開設することを目的とし、会則制定日等を加筆すること、学会の所在地を明記することの二点について提案がなされ、承認された。

5) 平成27年度補正予算について

資料8に基づき、長谷川聖修理事より、各委員会長からの補正予算の要望を加味した予算案が示された。学会誌発行、旅費、会議費、アルバイト謝金、会員管理電子化、事務局機器への補正について詳細な説明がなされ、承認された。

6) 第27回日本コーチング学会大会（日本大学）について

青山清英理事長より、学会大会の会場・時期についての提案がなされた。会場は日本大学文理学部、会期は2016年3月14日（月）・15日（火）とすることが承認された。

7) その他

① 出版物発行の構想について

「第1回日本コーチング学会出版委員会」の討議メモ（当日配付資料）に基づき、青山清英理事長より出版物発行についての構想が説明された。今年度内にコンテンツを決定し、来年度に執筆者の決定・依頼を行う予定が示された。

5 閉会宣言

朝岡正雄会長より、第65回日本体育学会の開催に向けて協力していただきたい旨の依頼がなされ、会議の閉会が宣言された。

日本コーチング学会・日本体育学会体育方法専門領域
平成27年度補正予算

収入

項目	平成26年度 予算額	平成27年度 予算額		備考
繰越金	10,862,849	10,355,051	507,798	
体育学会補助	230,000	230,000	0	
会費	3,204,000	8,140,000	△ 4,936,000	体育方法専門領域会員：1,192名 日本コーチング学会会員：436名
学生会費	0	100,000	△ 100,000	日本コーチング学会学生会員：50名
賛助会費	300,000	300,000	0	30,000円×10社
利子	15,000	0	15,000	
収入計	14,611,849	19,125,051	△ 4,513,202	

(繰越金を除いた収入) 3,749,000 8,670,000

支出

項目	平成26年度 予算額	平成27年度 予算額	補 正	補正予算額	26年度ー補正 予算の増減	備考
事務経費	100,000	100,000		100,000	0	
学会誌発行	2,720,000	2,750,000	○	3,650,000	△ 930,000	学会誌第27巻2号, 第28巻1号印刷・発送費 (単価704円×1,560冊+送料) 増刊号(90万円)
通信費	50,000	50,000		50,000	0	情報発送
シンポジウム等開催	300,000	300,000		300,000	0	第66回国土館大学
大会費	2,000,000	2,200,000		2,200,000	△ 200,000	学会大会運営費および専門領域研究会運営費
研究補助金	500,000	500,000		500,000	0	助成数5件程度を目安として
学術団体登録費	30,000	30,000		30,000	0	日本スポーツ体育健康科学学術連合登録費
表彰	100,000	100,000		100,000	0	最優秀賞1, 優秀賞5, 奨励賞6として
旅費	400,000	500,000	○	800,000	△ 400,000	会計監査経費, 理事会旅費(2回分) 将来構 想委員会・出版委員会(3回分)
会議費	100,000	200,000	○	300,000	△ 200,000	理事会, 将来構想委員会・出版委員会など
アルバイト謝金	500,000	500,000	○	600,000	△ 100,000	事務局運営に関わるアルバイト代
HP管理運営費	300,000	500,000	○	800,000	△ 500,000	レンタルサーバ, ドメイン等 会員管理を電子 化・一元化
選挙実施経費	450,000	0		0	450,000	
事務局機器			○	300,000	△ 300,000	事務局移転に伴うpc関連機器等の購入
雑費	120,000	150,000		150,000	△ 30,000	会費振替手数料等
予備費	100,000	100,000		100,000	0	
支出計	7,770,000	7,980,000		9,980,000		
年度収入-支出	△ 4,021,000	690,000		△ 1,310,000		
繰越金	6,841,849	11,145,051		9,145,051		

平成26年度 学会賞等表彰者一覧

日本体育学会第64回大会（2014年8月28日～30日）

会場：立命館大学・びわこ・くさつキャンパス

体育方法専門領域優秀賞

金堀哲也（筑波大学大学院）野球の内野守備におけるゴロ処理の動作形態に関する研究

豊田泰代（貞静学園短期大学）スキップの発生過程

野口智博（日本大学）ジュニア競泳選手への技術指導法の検証

足立達也（広島大学大学院）陸上競技100m走の加速局面における上体の起こし方がパフォーマンスに及ぼす影響

体育方法専門領域奨励賞

平野達也（愛知教育大学大学院）400m走後半における疾走速度に影響を及ぼすバイオメカニクスの要因

元雄 潤（立教大学大学院）野球一塁塁審のパフォーマンス評価方法の検討

岡部将也（筑波大学大学院）野球投手の制球力向上に関する事例的研究

本嶋良恵（鹿屋体育大学大学院）運動観察のトレーニングがスポーツの「診断力」へ及ぼす影響

小倉 圭（筑波大学大学院）大学野球選手におけるゴロ捕球動作に関する研究

塩田義法（日本体育大学）水球競技におけるGame Senseアプローチ導入の効果

日本コーチング学会第26回大会（2015年3月7日・8日）

会場：大阪体育大学

学会賞

大塚 隆（東海大学）シル・ホイール（CyrWheel）の習熟過程に関する研究—ピボット動作に着目して—

小倉 圭（筑波大学大学院）内野手のゴロ処理におけるアプローチ局面に着目した指導に関する事例研究

戸邊直人（筑波大学大学院）3Dキネティクスを用いた男子走高跳トップジャンパーの技術評価